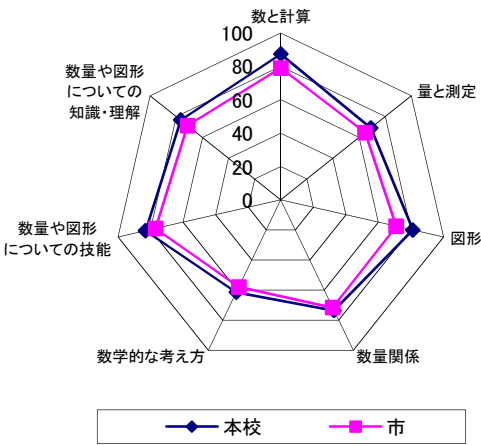


宇都宮市立清原北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	87.3	79.0	78.9
	量と測定	69.0	64.6	66.2
	図形	81.1	70.9	77.8
	数量関係	73.5	71.6	66.6
観点別	数学的な考え方	61.4	57.8	54.8
	数量や図形についての技能	83.0	76.9	75.2
	数量や図形についての知識・理解	76.7	71.3	75.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「小数の計算」「分数の計算」の平均正答率は、市の平均よりも高い。特に、分数×分数(約分1回)の正答率は100%で成果が見られる。 ●分数のわり算の文章題の正答率が低く、基準量、割合、比較量を表す図の理解と分数の乗除の意味の理解に課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・数量の関係を捉えることができるよう、テープ図などを活用しながら、比較量、基準量、割合を把握し、演算決定と立式をする力を育みたい。 ・分数の除法について計算方法を確認し、単位量当たりの大きさが、何を意味するのかを理解できるように指導する。
量と測定	○「単位量あたりの大きさ・速さ」では、速さをもとに、ある道のりを進むのにかかる時間を求める問題での正答率は市の正答率よりも高かった。 ●単位量あたりの値を求める式がどのような大きさを求める式かを説明するにあたって、課題の解決の理由を記述することに課題が見られる。	・速さ、時間、道のりの関係について復習をしながら再度確認させていく必要がある。その際、公式の定着を図っていく。 ・課題を解決するために、何が根拠として必要になるか、解決の見通しを明確にしてから説明を書き始めるよう指導する。
図形	○図形については、すべての設問の正答率が市の正答率よりも高かった。様々な図形の特徴や辺、角に注目して考えることに一定の成果が見られる。 ●円の直径をもとに円周を求める式を選ぶ問題では正答率が低く、面積の求め方などと混同しているように思われる。	・図形における様々な求め方を確実に押さえていく必要がある。公式を活用し、再度復習していく。 ・正確に作図ができるよう、辺の長さや角の大きさに着目させるとともに三角定規、分度器、コンパス等を十分に活用させる。
数量関係	○数量関係の領域では市の平均正答率よりも高く、「比例・反比例」の正答率は100%であり、成果が見られる。 ●「文字の式」「円グラフを活用しての割合」は、正答率が低く、文字を使って2つの数量の関係性を式に表すことと円グラフから割合を読み取ることに課題が見られる。	・円グラフをはじめ、様々なグラフの読み方について割合を活用して読み取る指導を重視する。 ・簡単な文章題の値を文字に置き換える活動を通して、2つの数量の関係性に着目させ、文字の式に表すことができるように指導する。